

1964年東京オリンピックの年、ティッシュが日本に初めて登場  
ずっと変わらない思い～「やさしさ」をお届けすること  
『クリネックス®ティッシュ』と『スコッティ®ティッシュ』 日本発売 50周年

日本製紙グループの日本製紙クレシア株式会社〔住所：東京都千代田区神田駿河台4-6、代表取締役社長：南里泰徳〕が生産・販売する『クリネックス®ティッシュ』『スコッティ®ティッシュ』は、今年で日本発売50周年を迎えました。

日本のティッシュ元年は1964年(昭和39年)、アメリカ生まれの万能紙ハンカチとして普及

世界で初めてティッシュが登場したのは、1924年(大正13年)でした。今から90年前のことです。それが、「Kleenex® Tissue(クリネックス®ティッシュ)」で、アメリカのキンバリー・クラーク社で誕生しました。発売当初は女性の化粧落としを目的として作られ、便利で使いやすいと多くの女性たちから好評を博しました。その後、化粧落としだけでなく、「使い捨てのできるハンカチ」として日常生活に広がり、今では世界150ヶ国で生活必需品の一つとして使われています。

日本では、今から50年前の1964年(昭和39年)に初めてティッシュペーパーが登場しました。同年2月に、山陽スコット株式会社から、「スコッティ®フェイシャルティッシュ」が、6月に、十條キンバリー株式会社から「クリネックス®ティッシュ」が相次いで発売されました。(注)

1964年当時の初代パッケージ



現在のパッケージ



発売当時の日本では、一般家庭における主流は「ちり紙」。「ティシュー」という言葉を初めて耳にし、その意味や使い方がわからないとの声も多く聞かれ、「高級化粧紙」として発売したものの、1箱80～100円もする高価な商品だったため、販売には苦戦しました。しかし、その後、セールスの努力、新聞やテレビでの宣伝が功を奏し、消費者の潜在的なニーズを呼び起こすことに成功。多目的に使える「アメリカ生まれの万能紙ハンカチ」として、鼻をかんだり、子供の手や口を拭いたり、部屋の中の気になる汚れを拭き取ったりと数々の使用シーンを提案することで、飛躍的に普及していきました。

(注)山陽スコット株式会社(1993年に株式会社クレシアに社名変更)と十條キンパリー株式会社は、1996年(平成8年)に合併し、株式会社クレシアとなりました。その後、2006年(平成18年)に社名変更により、日本製紙クレシア株式会社となり、現在に至っています。

## 信頼されるブランドの確立とともに、消費者のニーズに合わせてラインアップを拡充

多目的に使える生活必需品として、ティシューは、日本の高度経済成長期に台頭してきたスーパーマーケット等による販路拡大で、多くの方々に愛されるロングセラー商品として定着していきました。ティシュー市場に他社が参入し、競争が激化する中で、「クリネックス®」「スコッティ®」は差別化を図り、高いクオリティ、機能性の充実により、日本のティシューの草分け的存在として消費者に信頼されるブランドを確立していきました。

それは、日本人らしいニーズの取り込みの歴史でもあります。当社の主な歩みを振り返ると、次のような取り組みがありました。

1971年(昭和46年)には取り出しやすさを重視して「クリネックス®ティシュー」の取り出し口にポリウインドウを付けたパッケージを発売。これは、現在の一般的なティシューのパッケージとなりました。



昭和50年代になると、家の各部屋へ置いてもらうことを想定としてポリ袋を利用した複数ボックスの販売が市場に出始め、1984年(昭和59年)に「クリネックス®ティシュー」5箱パックの発売を開始。これは、現在に至るまで販売形態の主流として定着しています。

1985年(昭和60年)には、これまでにない紙のやわらかさ“ふんわり”カシミヤのような肌ざわりを実現した「スコッティ・カシミヤ」を発売し、30年近く愛され続けるロングセラーとなっています。



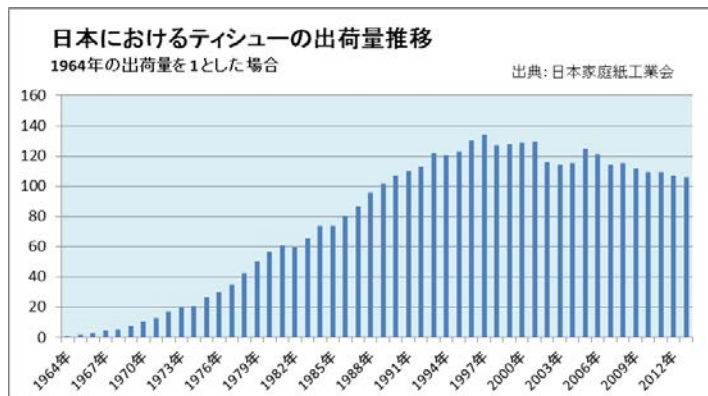
また、花粉の季節に今や定番となったローションティシューは、1994年(平成6年)に「クレシア アロエローションティシュー」として発売、現在は「クリネックス®ローションティシュー」として、アレルギー性鼻炎などに悩む人の愛用品となっています。

2010年(平成22年)、厳選された原材料と抄紙技術の粋を凝らし、究極のやわらかさ、風合いを実現した4枚重ねの「クリネックス®ティシュー至高『羽衣』」の販売を開始しました。3箱で3,000円(税抜)という高価格品ですが、贈答用などにお使いいただくヒット商品になっています。2012年(平成24年)からは、ポケットティシューの新発想“アコーディオン折り”を採用し、ティシューを広げる、たたみ直す手間を省く「クリネックス®ティシュー アクアヴェールポケット アコーディオンタイプ」を発売しています。



## 日本のティシューの消費量は今や 105 倍に、「やさしさ」が愛され続けて 50 年

日本におけるティシュー出荷量は、発売を開始した 1964 年の出荷量を 1 とすると、現在では 105 倍となっています。また、2013 年の国民一人当たりの使用量は約 3.6kg で、180 枚入りのクリネックス®ティシューに換算すると約 18 ボックスとなり、様々な用途でティシューが使われていることがうかがえます。



半世紀もの長きにわたりずっと変わらない思い、それは「やさしさ」を皆さまにお届けするということ。クリネックス®は、より「上質」に、スコッティ®は、より「機能的」を目指して、今までもそしてこれからも、“衛生的で安心安全をお届けするブランド”として、確かな品質、価値ある製品を作り続けてまいります。

### 『クリネックス®&スコッティ®発売 50 周年 これからも続くやさしさキャンペーン』

日本でのティシュー発売 50 周年を記念して、日ごろのご愛顧に感謝を込めて、2014 年 6 月 1 日から 2014 年 9 月 20 日まで、『クリネックス®&スコッティ®発売 50 周年 これからも続くやさしさキャンペーン』を実施いたします。

これからも「クリネックス®」「スコッティ®」の変わらぬご愛顧をよろしくお願い致します。  
(詳細は別途リリースをご覧ください)

添付: 参考資料 『クリネックス®ティシュー』『スコッティ®ティシュー』の 50 年

以上

〔参考資料〕

『クリネックス®ティシュー』『スコッティ®ティシュー』の 50 年

1964

「スコッティ®ティシュー」  
100 組 200 枚-80 円、  
200 組 400 枚-150 円  
「クリネックス®ティシュー」  
100 組 200 枚-100 円、  
75 組 150 枚-60 円、  
ポケット 12 組 24 枚-30 円

1965

「クリネックス®ティシュー  
エコノミーサイズ」  
200 組 400 枚-180 円

1969

香りの「スコッティ® レインボー」



1971

ポリウインドウ付きの  
「クリネックス®ティシュー」

1975

「クリネックス® フォーカラー」



1978

「V フォールド スコッティ®」



1983

「ニュークリネックス®」



1984

「クリネックス®ティシュー」  
5 箱パック

1985

「スコッティ® カシミヤ」

1986

「スコッティ®  
ティシュー」  
5 箱パック



ストライプデザインのパッケージが  
初めて登場

1994

「クレシア アロエローション  
ティシュー」

1997

「クリネックス®ティシュー」「スコ  
ッティ®ティシュー」コンパクト化

2001

「クリネックス® ローションティシ  
ュー」



2002

「クリネックス®  
ティシュー」  
5 箱パック」



2003

「スコッティ®  
ティシュー」  
5 箱パック  
フラワー」



フラワーデザインのパッケージが  
初めて登場

2004

「クリネックス® アロマローション  
ティシュー」



2007

「クリネックス® やわらかフィー  
ル 3 箱パック」、  
「クリネックス® ローションシルク  
フィール 3 箱パック」、

「クレシア 美空圏」



光触媒加工したボックスが部屋の  
消臭、空気浄化、抗菌といった効  
果をもたらす

2008

「クリネックス®ティシュー 至高」



ローション液等を塗布することなく、  
「やわらかい」ティシューを作るため  
に原材料、抄紙、加工にこだわっ  
たティシュー。「至高」の文字は、書  
道家武田双雲氏によるものです。

2009

「クリネックス® メイクケアティシ  
ュー」



お肌と同じ弱酸性のローション液  
を塗布したティシュー

2010

「クリネックス®ティシュー 至高  
羽衣」

2012

「クリネックス® アクアヴェール  
ポケット」



シートを取り出す際に、たたみ直さ  
ず、引き出してすぐに使える“ア  
コーデオニ折り”を初めて採用

2014

日本初のティシュー「クリネッ  
クス®ティシュー」「スコッティ®ティ  
シュー」が発売50周年

※現在発売を終了している商品もございます。